
大好きな君へ

萌視

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大好きな君へ

【Nコード】

N7936D

【作者名】

萌視

【あらすじ】

私は、宮川沙羅同級生のある子が好きで…

君が好き

第一話

「大好きです」

中学校の春

私には今、大好きな人がいる。

私は宮川沙羅

今日から中学三年生

「三年生だから、勉強頑張らなきゃね。」

私は自分の部屋で

鏡に向かってそう言った

「沙羅あ！！早くしないと遅刻しちゃうよ！！！」

なかなか自分の部屋から出てこない沙羅に

苛立って沙羅の母親が

二階に向かって叫んだ

「わかった！すぐ行くから！！！」

沙羅が二階から降りて来た。

「もうこんな時間?!友達待たせてんだっ!」

慌ただしく

靴を履いて出て行った

ークラス…同じだったらしいな

「綾!!ごめえん…ハアツ…待つ…た?ハア…」

「もう。待ったに決まってるでしょ?!」

この子は私の親友の
上原綾。

髪が長くて色白で
顔立ちがよくて美人。

「ほら、早く行こ」

「まだ時間あったね」

「うん」

うちの学校は八時二十五分までにつけば
問題はない

今の時間は
八時十分過ぎ

「あー！！綾とクラス一緒ダア！！！！」

「よかったね…あ。」

綾が何かを見つけた様に指をさした

「あいつと一緒にのクラスじゃん。」

「わ…本当だ

「おい。」

ビクッ

びっくりして
振り向いた

「と…斗夜」

「お前らでクラス表見えねえんだよ。見たんならさっさとどけ。」
この乱暴な言い方のする男、二神斗夜
私の大好きな人

「そんな言い方ないじゃん。うちらだって見てんだから」

私はいつも斗夜に向かってついこんな口を聞いてしまう

「うるせえなあ…たくよお。またお前と同じクラスかよ。」

「わ…わるかったわね」

私は斗夜の顔が見られなくて、俯いていた。

「俺と同じクラスで嬉しいか??」

「…はあ??なにいつてんのよ!!」

急にそんな事を言われてびっくりした

「俺とお前さクラス離れた事ないよな。くされ縁って奴か??ハハッ」

そう、私達は
小学校の時から一緒に
クラスが違ふ事なんて
一度もなかった

「沙羅、もう二十分だよ。早く行かないと」

「うん。行く」

「なんであんなって子はいつにあんな口を聞くの??? 好きなん
でしょ??? あいつの事。」

「うん。」

なら、すこしは女の子らしくしなさいって
綾におこられちゃった。

「うわあ
しらないひとばっか」

「そりゃそうだよ。沙羅、あんな馬鹿になったの??」

「綾は頭いいもんね!!」

私はすこしムツとした

「あは。ごめんごめん。沙羅、どこの席がいい?」

「うーん…あつ!あそこ!!後ろの窓際」

私の学校の全校生徒の数は953人。

五クラスある

名前知らない人とか
喋った事ない人とか
結構いる。

キンコーンカーン…

「先生、誰だろうね！」

ガラッ

「なんだ…。斗夜か。びっくりしたじゃん。」

―先生かと思っただのに

…斗夜どこに座るんだろ私の近くとか来ないかな

「知らねえ奴ばっか。おい、沙羅、後ろ空いてるか??」

「う…うん!!空いてるよ!!」

―やった!!嬉しいよう

「あ。」

「どうしたの??」

鞆を見て斗夜が言った

「筆箱忘れた。おい、沙羅、なんかペン貸せ」

「なによー！えっらそうにー！それが人に頼む時の態度？！ま、どうしてもって言うんなら仕方ないわね。貸してあげる。」

「おまえ、言う様になっ たなあ。」

ガラッ

「おはようございます。私が貴方方の三年生の担任、麻田珪」といいます。一年間よろしくお願いします。」

ーわ…なんか
怖そうな人だな……

麻田先生は
髪の毛がぴしつとしていて、すごく格好良いんだけど、眉間にシワ寄ってて、怖そうな人だった

つんつん

うしろからつついてくる

「何??」

私は先生に聞こえない様に、小さな声で喋った

「なんかさあ、あの先公ウケねえ??ピシツとかしこまっちゃって
よお。怒ったら怖そう。あいつ絶対新任だぜ??見た事ねえもん。」

「うん。私も見た事ない。」

「なんか、堅そうな奴だなあ。俺あーゆーやつ嫌いだな」

「私も、君の様な奴は、あまり好かないな。」

「げっ。聞こえてたのかよ。」

「地獄耳だ。」

「二神斗夜、宮川沙羅、後で職員室に来なさい」

「沙羅…あんた馬鹿だねえ…」

「綾もついてきてよお」

「嫌だね」

「そこ。喋ってないで、返事は？」

「…はあい」

「あんたのせい…だからね?!」

「なんで俺のせいなんだよ!!」

「だってあんたが…」

「…ごほん。…いい加減にしてくれないか」

がんっ

私は後ろに向かって

斗夜の足をけた

すねにクリーンヒットした

「っ…っ」

—ふん、馬鹿

「もう…なんで私がこんな目に合わなきゃなんないのよ」

「お前が話してるからだろ」

「だいたいあんたが…」

「職員室の前でまで喧嘩をするな！！最近の子供は…」

先生は一人でぶつぶつ
いつていた

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7936d/>

大好きな君へ

2011年10月4日20時34分発行